

巻頭言

うさぎのように
跳ねる活動

会長 能村 研三



第 204 号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事務局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目 次

| | | |
|-------------------------|----------|---|
| うさぎのように跳ねる活動 | 会長 能村 研三 | 1 |
| 第八回千葉俳句大賞決まる | | 2 |
| 大賞 句集『梅が香』三枝かずを | | 3 |
| 準賞 句集『宇宙』藤岡貞夫 | | 4 |
| 俳句大賞選評、受賞者のことは | | 5 |
| 千葉県俳壇ニュース | | 6 |
| ひろば | | 7 |
| 結社賞、会員著書紹介 | | 8 |
| 基金御礼、新入会員一句、受贈誌より、事務局日誌 | | 9 |

今年卯年。十干十二支では「癸卯（みずのと・う）」です。「癸（みずのと）」は雨や露、霜など静かで温かい大地を潤す恵みの水を表わし、また、十干の最後にあたることから、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味すると言われていいます。「卯」は穏やかなうさぎの様子から、安全・温和の意味があり、さらにうさぎのように跳ねあがると言う意味もあります。「癸卯」の今年停滞した世の中に希望が芽吹き、花開く助走の年となるとも言われています。コロナ禍の閉塞感に包まれた過去三年から脱するにふさわしい年にしたいと思えます。

昨年はロシアによるウクライナ侵攻という国際情勢にも不安な影がしのび寄りました。

そんな中、私たちの千葉県俳句作家協会もウィズコロナを見据えながら粛々とした活動を始めました。昨年二月には、千葉青葉の森芸術文化ホールで開催される「青葉の森能」に合わせて行われた、短冊展が開催され、九月には千葉県民芸術祭の一環としてそごう千葉店地階ギャラリーにおいて、色紙短冊展が開催され、句に合わせた写真も

展示され多くの方にご覧いただくことが出来ました。

また、五月十五日には千葉県俳句作家協会の通常総会が開催され、同時に「千葉県俳句大賞」並びに「千葉県俳句作家協会賞」の贈賞式、新緑交流俳句会も開催することが出来ました。

九月にはこれも久しぶりの開催となった、吟行会が小江戸の一つ佐原で開催され、多くの方にご参加いただきました。

さらに十月には、実に台風やコロナの影響で四年間開催されなかった第64回千葉県俳句大会が開催されました。当日は秋尾敏副会長による講演も行われ、伝統ある千葉県俳句作家協会の歴史をお聞きすることができました。

こうして昨年一年の協会の活動を振り返ると、コロナ禍以前より活発に活動しているようにも思われます。これに関わったスタッフの皆さんのご尽力にも心より感謝申し上げます。

今年千葉県俳句大会も65回目となる節目の年となります。今年もコロナ感染に気を付けながらも充実した一年にしたいと思います。

第8回千葉県俳句大賞決まる

千葉県俳句作家協会では千葉県内に居住する作家が、毎年十二月一日より翌年の十一月末日までに刊行した句集を対象に「千葉県俳句大賞」を設定し表彰を行っている。作品は自薦・他薦を問わず、また当協会に加盟の有無も問わず、選考事務局に送付された全句集が対象である。

本年は十一句集の応募があった。各作家による各自の句集より、自選二十句を選者六人に前もって配付、検討を依頼した。

昨年十二月十七日、依然としてコロナ禍を心配されるなか感染予防策を取りながらホテル「プラザ菜の花」に於いて選考会を開催した。選考委員は本年度数名の交代があり、能村研三、増成栗人、秋尾敏、北川昭久、石井紀美子、村上喜代子の六人である。

選考委員は各句集の自選二十句をもとにまえもって検討、当日六人（一人書面参加）が真剣な討議を交わし、左記のとおり本年度の受賞句集が決定した。なお奨励賞は該当無しとなった。

大賞の三枝かずを氏は「ホトトギス」「玉藻」同人。準賞の藤岡貞夫氏は「かまつか」同人。選考会においては一冊一冊の句集をさまざまな角度から検討、熱の籠った討議がなされたことを付記する。

◎第八回 千葉県俳句大賞

句集『梅が香』 三枝かずを

書肆アルス (二〇二二年 刊行)

同、準賞

句集『宇宙』 藤岡 貞夫

喜怒哀楽書房 (二〇二二年 刊行)

選考委員は俳人協会・現代俳句協会・伝統俳句協会の三団体で当協会所属の作家たち。それぞれの協会の枠を超えた真剣な討議の場である。さらに広く県内の俳人の功績を顕彰してゆきたく、来期も奮っての皆様に応募を期待している。(村上喜代子)

選考委員

能村研三
増成栗人
秋尾敏
北川昭久
石井紀美子
村上喜代子



俳句大賞選考会

大賞



句集『梅が香』

三枝 かずを 自選二十句

富津市在住。「ホトトギス」同人、「玉藻」同人、日本伝統俳句協会会員、千葉県俳句作家協会顧問、かずさホトトギス会・松風代表、医師、医療法人社団三友会理事長。昭和七年富津市生まれ。

| | |
|-----------------|------------------|
| もう春を待つてゐられぬ野の光 | ひぐらしに囲まれて水暮れにけり |
| 立春の大空にして瑕瑾なし | 耳疎くなれば耳寄せ人の秋 |
| 初音してしばらく風の音ばかり | 知らぬ間に過ぎし一雨や窓の秋 |
| 踏青や久しく逢はぬ人集ひ | 鳴らしく鳴きらしからぬやうに鳴き |
| 春愁をまとひし影を草に置く | 秋風や水に栄えし町亡ぶ |
| 残桜やすこし会はねばなつかしく | 小鳥来る風禍の跡の梢にも |
| 飛ぶ虫も這ふ虫も出よ梅雨晴間 | 口裂けし土囊の砂の草の花 |
| まだ着られさうに脱がれし蛇の衣 | 冬の鳥梢の光奪ひあふ |
| くつがへりつつ波に乗る海月かな | 落葉して遠くの海が見える丘 |
| 天地の絆をむすぶ落し文 | 旅人のやうに北風まとひ来し |

準賞



句集『宇宙』

藤岡貞夫 自選二十句

柏市在住。第十九回千葉県俳句作家協会賞受賞、
かまつか真炎賞受賞、かまつか賞受賞、「かまつか」同人会長、「柏葉句会」代表、俳人協会会員、
柏市俳句連盟顧問、千葉県俳句作家協会会員、
昭和十一年滋賀県生まれ。

千万の蕾したがへ梅一輪
 少年の槍陽炎に突き刺さる
 フランスを仏と書いて万愚節
 水馬水に濡れずに水に棲む
 夜の新樹づきんづきんと血の流れ
 軽梟の子の一行といふ絆かな
 片陰を出て新しき影生まる
 夕闇を沼に引き込む牛蛙
 てにをはを省略したき酷暑かな
 峰雲より子ら降りて来る滑り台
 風呂敷は一枚の布文化の日
 秋刀魚焼く煙にひそむ波の音
 引力は見ゆるものなり木の実落つ
 落葉して風に素直になる大樹
 着ぶくれて空席の幅目で測る
 着ぶくれて影に齢の加はりぬ
 初雪をのせ考へる木となりぬ
 餅焼くや母郷の空気ふくらませ
 万象をまあるく鎮め雪積る
 枯蓮の骨の一徹水を刺す

第8回千葉県俳句大賞選考対象句集

| 番号 | 賞 | 句集名 | 著者 | 刊行年月日 | 刊行出版社 | 現住所 | 所属結社 |
|----|----|-------|--------|----------|------------|------|--------------|
| 1 | | 空白の時 | 西嶋 久美子 | 22・8・26 | ふらんす堂 | 柏市 | 嶋 |
| 2 | | ローカル線 | 白鳥 秀幸 | 22・8・20 | (株)ハンダテ | 市原市 | イオンカルチャーセンター |
| 3 | | 横顔 | 須田 眞里子 | 22・9・18 | 文學の森 | 木更津市 | 好日 |
| 4 | 準賞 | 宇宙 | 藤岡 貞夫 | 22・10・10 | 喜怒哀楽書房 | 柏市 | かまつか |
| 5 | | 蟬しぐれ | 大見 充子 | 22・1・28 | 紅書房 | 佐倉市 | 響焰 |
| 6 | | 四時逍遙 | 木村 傘休 | 22・4・10 | 千代田印刷 | 市原市 | 春燈・げんげ |
| 7 | | 山薬粥 | 木村 みどり | 22・4・10 | 千代田印刷 | 市原市 | 春燈・げんげ・音信 |
| 8 | | 母あかり | 上田 玲子 | 22・2・5 | (株)コールサック社 | 船橋市 | 沖 |
| 9 | | 家系図 | 塙 誠一郎 | 22・10・22 | 東京四季出版 | 市川市 | 沖 |
| 10 | | 四季逍遙 | 加藤 酔歩 | 22・10 | 東京四季出版 | 流山市 | 悠 |
| 11 | 大賞 | 梅が香 | 三枝 かずを | 22・6・30 | (株)書肆アルス | 富津市 | ホトトギス・玉藻 |

第八回 千葉県俳句大賞選評

大賞句集『梅が香』選評 能村研三

当協会の副会長を歴任され、現在顧問としてご指導いただいている三枝かずを先生が、句集『梅が香』を上梓された。先生は、先に銀婚の年に『周恵の里』、金婚の記念に『泉波む』を上梓されており、今回卒寿を迎えられたことと、結婚六十年（ダイヤモンド婚）を記念してふみ代様と共に夫婦句集を出されたことは同慶の極みである。加賀谷凡秋に俳句を学びホトトギス同人、「晴居」「玉藻」同人として医師と俳句を両立させながらも、齢を深めることに自在な句境をもって日常生活の情景を詠まれておられる。

いつもお会いすると、柔和で優しい口調でお話をされるが、先人の句の多くもしつかりと記憶されていて、その博識に敬服している。

青年は野をひた走り鳥雲に
庭に咲くもの小さな暮春かな
一病に一誉賜り年迎ふ

雨と聞き心おきなく春眠に

準賞句集『宇宙』選評 北川昭久

句集「宇宙」は、第一句集「大地」上梓（平成二十三年）から十年目の第二句集です。氏は結社誌「かまつか」所属、千葉県・柏市に拠点を置き、本書には平成二十三年以降の作品三二〇句を、編年方式で、入輯している。

句集名「宇宙」は、広大無辺な俳句の道を今後とも歩み続けたいとの思いからである。句は社会の摂理と感性で、格調高く詠った作品が多い。

千万の蕾したがへ梅一輪
軽梟の子の一行といふ絆かな
少年の槍陽炎に突き刺さる

枯蓮の骨の一徹水を刺す

蠅螂の死しても斧を地に置かず
着ぶくれて空席の幅目で測る

作者の句は、句材の前で五分は見据えての句作であろうと思われる句が多く、句材を前に、じつと待つところで、対象に深く入り、心の交流があつて季語を突き動かして、一つの世界観を演出するという句が多い。

街いのない句の連続は、句集「宇宙」の奥深さでもある。

今後の豊かな俳句人生の展開と更なる活躍を期待したい。



第八回 千葉県俳句大賞

受賞者のことば

大賞

三枝 かずを

この度は思いも掛けず俳句大賞受賞のお知らせを頂き、正直驚いております。先生、永らく県協会役員の末席を汚し、審査員の諸先生方のお世話になっていましたが、今回隠居してはじめて友人のお薦めで応募したところ嬉しい結果となりました。まずは審査の労を執られた諸先生方に御礼申し上げます。私は学生時代、加賀谷凡秋先生（ホトトギス同人・千葉医大教授）に俳句の手ほどきを受け、萩原季葉・村山さとし先輩の紹介で本会に入会しました。受賞の対象となった句集『梅が香』は私共の結婚六十周年を記念して、ここ十年間、「ホトトギス」「玉藻」「松の花」及び朝日俳壇（稲畑

汀子選）の入選句の中から選んだ作品を収めたものです。周囲を見渡すと俳句に才能がある人々が多い中で、ひたすら愚直に師の教えに従って七十年間俳句を続けて来ました。今回の受賞は長年私を育てて下さった伝統俳句の諸先生方と、今まで広い視野に立って多くの俳句を学ばせてくれた当協会の皆さんのお陰と改めて感謝申し上げます。最後に、この句集を編んでいる最中に他界された稲畑汀子先生に泉下で喜んで頂ければと思います。以上、整いませんが、受賞御礼のご挨拶と致します。

準賞

藤岡 貞夫

この度、第八回千葉県俳句大賞・準賞を賜りまして身に余る光栄に存じます。ご推薦くださいました選考委員の皆様にご感謝申し上げます。

振り返れば平成八年柏市俳句カルチャー（講師 高橋秋月・元俳句作家協会副会長）を受講して俳句の手ほどきを受けたのが俳句の道の第一歩であった。翌年、柏市で最も歴史ある「柏葉句会」（昭和四年発足・戦中休会・昭和二十四年、佐々倉水仙人が再興）に入会し、更に、高橋秋月師のお勧めで結社「かまつか」へも入会し、倦まずたゆまず俳句を作り続けて二十七年が経過した。その間平成二十三年に第一句集「大地」を上梓し、令和四年その後十年間の俳句から三二〇句を自選して第二句集「宇宙」を上梓しましたところ栄えある準賞を受賞することができ誠に有難うございます。いまだ「俳句とは何か」その奥深さを真に理解するに至っていませんが、この果てしなく広大無辺な俳句の道を一步一步終生歩み続けていきたいと思えます。

千葉県俳壇ニユース

第七十五回館山市俳句連盟俳句大会

令和四年十一月一日。事前投句の応募者は一〇八名、一人三句の三二二句を九人の選者(川名大、金丸謙一、伊丹さち子、庄司風樹、東國人、石崎和夫、滝口照影、川上惇、粕谷鮎水)が選を行い、上位者が表彰された。地元安房高校卒業で、今年度現代俳句大賞受賞者・川名大氏が講演した。演題は「那古病院時代の三橋鷹女」。鷹女は、明治期、県下有数の近代病院・那古病院(館山市那古在)の歯科医師・東謙三と結婚し、夫とともに俳句を始めた。その経緯や鷹女の句の変遷を、彼女の生涯と重ねて話した。

俳句大会上位入賞者

爽籟を呼び寄せ庭師帰りけり 伊藤よし江
 矢を放つ残心の背に涼のあり 笹生 君雄
 先づ胸を潮に濡らして稽古海女 粕谷 鮎水
 吾が影に妻の影添ふ良夜かな 櫻井 泰
 もてなしの夏炉に海人の安房訛 大沢美智子
 村人になりきつてゐる案山子かな 川崎 一美
 睡蓮花寄せて野良着の手を洗ふ 篠田よもぎ
 浜に嫁し素顔の一世鱗干す 小形 博子
 麒麟の舌帰燕の空を舐めてをり 関本かをる

風鈴を振つて南部の音を買ふ 川上 惇
 大島を沈めて高し土用波 滝沢 浩
 崖観音百余の段に蟹の這ふ 久礼 隆志
 (会長 庄司風樹報)

第六十九回 柏市文化祭俳句大会

柏市俳句連盟・柏市文化祭実行委員会主催の文化祭俳句大会が十一月五日、三年振りに一堂に会して柏市中央公民館に於いて開催された。参加者は一〇八名であった。

天賞作品と上位入賞者(三十位までのうち十位まで)の代表句は、次の通り。

◆招待選者・会長・顧問選(敬称略) 天賞作品

秋尾 敏選
 惜別の糸白々と冬の滝 山口ひろよ
 北川 昭久選
 菊日和十三歳に贈る文 道関三恵子
 石田きよし選
 見たことを話したそうに捨て案山子 岡田 春人
 松田 雄姿選
 鳥の声透きとほりたる水の秋 徳永 政代
 藤岡 貞夫選
 握る手になほ力あり花八手 北川 昭久
 ◆入賞者(互選二句合点) 代表句
 (二位〜三位は連盟会長賞)
 ①手に掬ふ水に月差す重さかな 山村 自游
 ②席を詰め小春の椅子を分かち合ふ 大政 建夫
 ③ペランダに夕日放さぬ吊し柿 小泉 欣也
 ④見たことを話したそうに捨て案山子 岡田 春人

⑤古書店の奥の一冊冬隣 松尾 涼
 ⑥新刊は書架の真ん中室の花 立花 光夫
 ⑦秋思ふと敢えてその先考えず 金田めぐみ
 ⑧哀しみの形に落ちし熟柿かな 石田きよし
 ⑨山の日を隈無くあつめ吊柿 箕輪カオル
 ⑩声太き海の男や豊の秋 吉田 叔子
 (柏俳句連盟 茶谷静子報)

令和四年度市川市芸術祭

第七十四回 市川市市民俳句大会

日程 令和四年十一月二十三日

場所 全日警ホール・市川市八幡市民会館

共催 市川市・市川市俳句協会

四季雑詠 一組二句 出句 四八八句

上位入賞作品

市長賞
 ①連山の骨格しかと冬に入る 伊藤 文
 市議会議長賞
 ②半分こ出来る相手のある良夜 木村 美翠
 教育長賞
 ③取り消し
 ④落蟬の眼に青空のあふれをり 菊池 光子
 ⑤年取るに上手下手あり蕎麦の花 古澤 春美
 ⑥道のべの穂芒手折る蛇笏の忌 塩野谷慎吾
 ⑦マフラーがみんな知ってる独言 本田 安仁
 ⑧影のやう風のやうにも揚羽蝶 原 瞳子
 ⑨万葉の風匂ひ立つ実むらさき 板橋 昭子
 ⑩列島は水のまほろば秋澄めり 本池美佐子
 (町山公孝報)

令和四年度

「好日」創刊七十周年記念全国大会

好日俳句会は、十一月二十三日、東京・上野精養軒において、創刊七十周年記念全国大会・句集出版祝賀会を開催した。席上、七冊の句集の出版祝賀と合わせて、令和四年度の「好日」三賞と年度賞の顕彰も行なわれた。

好日賞 中村 瞳

あらかたのくらしの軽さ種袋 瞳

青雲賞 鶴岡久美子

干布団今日の日差しを使ひきる 久美子

青雲賞 重城弥生

ウイルスの変異葛の葉総なだれ 弥生

白雲賞 山岸修児

方舟に優先順位星隴 修児

年度賞 須田真里子

をんなにも小さき繩張四十雀

(高橋健文報)

真里子

俳人協会千葉県支部

第二十五回 秋季吟行会

十一月二十九日、俳人協会千葉県支部の秋季吟行会が行なわれた。千葉公園を吟行地とし、午後八名が参加した。

入賞者及び特選賞受賞者は次の通り。

入賞者(十位まで掲載)

①水鳥の水に躓くことあらむ

原 瞳子

②千年を枯れ尽くさんと古代蓮

飯田 晴

③動かねば埋れさうなる木の葉雨

岡井マシミ

ひろば

県内吟行地案内

佐倉の「くらしの植物苑」

人には教えたくない場所。誰しもひとつくらい、自分だけのとっておきの場所があることでしょう。佐倉市在住の私には、「くらしの植物苑」がそれに当たります。

JR佐倉駅または京成佐倉駅からバスまたは徒歩で国立歴史民俗博物館を目指しましょう。広大な佐倉城址公園の一角に「くらしの植物苑」があります。「食べる」「治す」「織る・漉く」「染める」「道具をつくる」「塗る・燃やす」という生活に直結した六つのテーマに沿って、苑内は植栽されています。金縷梅・

朴の花・芙蓉・茶の花などの開花を通じて四季の変わり目を実感できることは、私の楽しみのひとつです。

特筆すべきは、桜草・朝顔・古典菊・山茶花の季節の伝統植物の特別展示です。配布される冊子が詳細な内容であり、鉢のひとつひとつに品種や名称を記した名札があるので、お気に入りの花が見つけれられることでしょう。

また、「段飾り」という江戸時代に流行した鑑賞法で桜草が展示されるなど、「見せ方」にも工夫がされています。

佐倉の「くらしの植物苑」は、季語の宝庫です。人には教えたくないのに、こんなに語ってしまいました(笑)

(千葉県俳句作家協会理事 柳田寿明)

- ④寒禽の呼び合うてみて睦まざる 松澤 美鈴
- ⑤うずみをもて水鳥のこゑを描く 伊藤 素広
- ⑥散るための力溜めたる銀杏かな 祐 森司
- ⑦踏み加減変へて落葉の音愉し 平野きらら
- ⑧杭一本定員一羽ゆりかもめ 中山 和子
- ⑨枯れ切つてより晴れ晴れと蓮の骨 石橋みち子
- ⑩咲きたくて散りたくてひめ椿かな 村上喜代子

特選賞

能村研三 顧問特選

松澤 美鈴

寒禽の呼び合うてみて睦まざる

松澤 美鈴

寒禽の呼び合うてみて睦まざる

松澤 美鈴

村上喜代子 支部長特選

祐 森司

散るための力溜めたる銀杏かな

祐 森司

大野崇文 支部長特選

増成 栗人

練兵場跡をふはりと雪蟹

増成 栗人

伊藤素広 支部長特選

村田美穂子

ブルーメラン 冬青空を輪切りにす

村田美穂子

飯田 晴幹 専長特選

梅田 実代

いつの間に舟より多き鴨の数

梅田 実代

(高橋健文報)

「好日」創刊七十周年記念特別号

高橋健文主宰の「好日」が創刊七十周年を迎え、十一月号が特別号として発行された。慶祝。主宰による「創刊七十周年を迎えて」のほか、「歴代主宰の十句」石井稔、「好日」創刊七十周年までの歩み、「好日」創刊七十周年記念作品集」等を収録。なお、発表された「好日三賞」「年度賞」については、別掲する。

「軸」創刊五十五周年

秋尾敏主宰の「軸」が創刊五十五周年を迎え、十月二十二日、野田市興風会館にて記念俳句大会、記念式典が催された。慶祝。席上、結社賞の顕彰も行われた。

軸作家賞 「traveling」赤羽根めぐみ

正五角形ステーション金木犀

軸作家賞 「月の舟」市川唯子

臨死とはどんな川べり月の舟

結社賞

令和四年度沖・結社賞

第五十一回沖賞 藤森すみれ

直立の御柱立夏かがやけり

第五十一回沖賞 小山田子鬼

茂吉忌の二合の酒を飲み余す

第四十五回珊瑚賞 平松うさぎ

永遠に羽化して涼しがれの玻璃

第四十五回珊瑚賞 鈴木光影

夜桜に呼ばれてゆけば白く燃ゆ

第五十一回新人奨励賞 浜田はるみ

秋の空すぼときりんの首嵌まる

第五十一回新人奨励賞 枇杷木愛

犬ふぐり鬩りて千の瑠璃隔る

令和四年度野火三賞

野火賞 和田秀巳

鶉が飛んで雲一つ無き初山河

新人賞 森澤幸

まつさらな産着の揺れて秋うらら

めぐみ

唯子

すみれ

子鬼

うさぎ

光影

はるみ

愛

秀巳

幸

青霧賞 「秋の目高」森村和弘

分家して秋の目高となりけり

第二回青霞賞

青霞賞 「鯉の息」中江栄子

大寒の水に沈みし鯉の息

ろんど賞

ろんど功労賞 「新・真・深」川南隆

句作りは新・真・深の去年今年

ろんど賞 「東京湾」斉藤るりこ

ろんど賞 「庄内の風」高宮水葉

ろんど賞 「庄内の風」高宮水葉

ろんど賞 「月光」葛七重

月光に呼ばれて羽の無い私

ろんど新人賞 「赤きつね」櫻井友美

ぬいぐるみいつも一緒の赤きつね

ろんど新人賞 「春の川」佐藤れおん

春の川木の葉さらさら裏返る

（「ろんど」一月号より）

和弘

（「野火」一月号より）

栄子

（「初蝶」一月号より）

隆

るりこ

水葉

七重

友美

れおん

会員著書紹介

●句集『梅が香』三枝かずを、三枝ふみ代著

ともに「ホトトギス」「玉藻」同人の夫婦句集。

銀婚を記念した『周恵の里』金婚を記念した『泉

汲む』に続く三冊目で、結婚六十年を記念したも

の。供に六十年以上の句歴と言ひ、花鳥諷詠、客

観写生の実践を経て、「平明にして余韻ある句」

の境地に至る。

庭に出てやつと時雨とわかるほど

話しつつ歩くしあはせ秋高し

道走る風の木の葉の行方かな

寄り添ひて虫聴く人のあることを

（令和四年六月発行・書肆アルス）

●句集『家系図』埴誠一郎著

「沖」同人会副会長を務める著者の第一句集。

サラリーマン生活を終えて、俳句を始めたという

が、祖父は子規派の俳人、父も「黎明」の編集同

人だったことが無意識の内に影響を与えたこと

と。題名にも通じる肉親を題材にした俳句、自身

の齢に向き合った俳句が注目される。

菜の花やレール曲がりて海に落つ

いつよりと言へぬ晩年さるすべり

家系図のはじめは分家蝸蚪の紐

菜の花の明るき朝やはは覚めず

（令和四年十月発行・ふらんす堂）

●『シリーズ俳句自解IIベスト100 秋尾敏』

著者は、「軸」主宰で当協会の副会長のほか、

全国俳誌協会会長、現代俳句協会副会長等の重責

を担っている。本書は、自選百句に自解を施した

もの。巻末には、「俳句をつくる上でわたしが大

切にしている三つのこと」という題で、世界観な

ど句作の背景について論じている。

忘却がみんな桜になっっている

さめざめと泣く滝もあり山の裏

走るほかなし船失いし舟虫は

生身魂銃後の虹を語りだす

（令和四年十一月発行・ふらんす堂）

●句集『砂時計』江見悦子著

著者は、昨年四月に「万象」主宰を継承した。本書は、第七回文學の森賞を受賞した第一句集『本の青空』に次ぐ第二句集。平成二十五年から令和四年まで十年間の作品三百句を収録する。自身の病氣療養や、師や肉親との別れも経験した多事多端の日々を詠う。

花の雲男の背を見失ふ
句ひ立つ若木や深雪払ふ時
辻立ちの寒行僧の眼に恋す
潜き鶴の水輪を春の鴨すべる

(令和四年十二月発行・文學の森)

新入会員一句

月光を分かち合ふこと生くること 川南 英隆
先生も雪に気づきて寄る窓辺 葛西 茂美
緑蔭にハーレーダビッドソン冷やす 伊藤 素広
草餅や未だ据わらぬ肝つ玉 木嶋 純子

基金御礼 (令和四年一〇月一六日以降)

野口 養子 稲田たえ子
(令和五年一月二五日現在：二口、四千元)

千葉県俳句作家協会 運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口 二千元
◇送付先 千葉県俳句作家協会基金口座
郵便振替 〇〇一四〇〇一七九二〇八三
基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせていただきます。

受贈誌より

あびこ(三六三号) 染谷 卓
この浜に船がかりなく月見草
いには(一月号) 村上喜代子
茶が咲いて老いゆくことをたのしまむ
沖(一月号) 能村 研三
杓置きも杓も青竹神迎
音信(一月号) 白鳥紅星子
火星来る月の兔の安堵の地
かずさホトトギス(六四一号) 三枝かずを
風いたみしつづ玉解く芭蕉かな
響焰(一月号) 米田 規子
鴉啼き立冬の空少し青
草の実(十二月号) 逸見 真三
来し方の葛折りかな草紅葉
鴻(一月号) 増成 栗人
秋燕忌一服の茶を熱うせよ
好日(一月号) 高橋 健文
また次の波打ち寄する翁の忌
鳴(一月号) 加藤 峰子
椿の実はげけ未知へと跳ぶ構へ
軸(一月号) 秋尾 敏
夢ふたつ啜えて来たり嫁が君
瀬祭(十二月号) 本田 攝子
穂芒の戦ぎて止まぬ古戦場
野火(一月号) 菅野 孝夫
綿虫飛ぶいつも綿虫らしく飛ぶ
初蝶(一月号) 中山 和子
旨くなけれど菊芋がマイブーム
万象(一月号) 江見 悦子
めざめては森に散り敷く冬紅葉

ペガサス(十五号)

枯芙蓉スローなジャズが湧き上がる 羽村美和子
百鳥(一月号) 大串 章
水鳥の水鳥を追ふ水しづき
ろんど(一月号) すぎき巴里
賜りし白寿の句集借命忌

事務局日誌

◆第四回理事会 (出席者23名)
日時 令和5年2月12日(日)
議事 1 令和4年度第64回千葉県俳句大会の報告について
2 令和4年度香取市佐原市内秋季吟行会について
3 令和4年度新春交流会について
4 第8回千葉県俳句大賞について
5 第37回協会賞について
6 令和5年度新緑交流会について
7 「さとう千葉店地階ギャラリー」における俳句短冊展示結果について
8 会報「真木」二〇四号について
9 その他 事務局報告

会員異動

新会員
川南 英隆(船橋市)、葛西 茂美(佐倉市)
伊藤 素広(柏市)、木嶋 純子(武蔵野市)
謹 訃
藤原登喜子様
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

歩いて俳句

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所

〒276-0023 八千代市勝田台一七七一
D-10005
電話 & FAX 0477-4877-7115

心を満たす俳句

「鴻」俳句会



主宰 増成栗人
師系 角川源義 吉田鴻司

発行所 〒271-0087 松戸市三矢小台二四一六谷口方
電話 0477-3631-4508
FAX 0477-3631-5110

◆誌代/年間 二一,000円

月刊俳誌 鷗 (しぎ)

鳴俳句会

代表 加藤 峰子
創刊 田中 午次郎
再刊 伊藤 白潮

誌代 1年 12,000円
(見本誌 500円)

〒260-0852 千葉市中央区青葉町 1274-14 加藤方
電話・FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

自然と人間の一体化を目指す
月刊 好日

名誉主宰 長峰竹芳
主宰 高橋健文

誌代 一年 二二,000円(送料共)

〒270-0007 千葉県松戸市中金杉一ノ七八
好日俳句会
電話 0477-7131-6495
振替 002501141278

月刊俳誌 沖 (おき)

俳句ルネッサンス

主宰 能村 研三

新会員募集中

誌代 1年/15,600円
半年/17,800円
見本誌 1冊 800円

沖発行所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振替 00170-6-161552

創刊50周年 軸

軸俳句会

主宰 秋尾 敏

〒278-0005 野田市宮崎95-4
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110
84円切手3枚で見本誌贈呈

俳誌 あびこ

誌代(隔月刊) 一年 四〇〇〇円

〒270-1138 我孫子市下ヶ戸二八五
TEL 0477-2181-4441
郵振替 00100141189074
あびこ俳句同好会

主宰 染谷 卓

一度きりの今を楽しむ いには INIWA

主宰 村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代 1年 12,000円 (月刊)
半年 6,000円 見本誌 500円

— いには俳句会 —

〒276-0036 千葉県八千代市高津390-211
電話 047-458-1919
Fax 047-458-1895
振替 00280-9-131469
HP検索: いには俳句会

現代俳句同人誌 遊牧

代表 塩野谷 仁

同人費 一年 二〇〇〇〇円
誌友費 一年 六〇〇〇円

〒273-0033 船橋市本郷町五〇七一-11307
電話 0477-3361-081
FAX 0477-3257-7338
遊牧俳句会